



四旬節第 2 主日 (ルカ 9:28b-36)

イエスの「エクソドス」「出発」について行く

「『これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け』と言う声が雲の中から聞こえた。その声がしたとき、そこにはイエスだけがおられた。」

(9・35-36) 声が聞こえて、イエスだけがおられたのは弟子たちへの合図です。合図を見逃さないようにして、今週の学びを得たいと思います。

今週は珍しく三つすべての教会の主日のミサを日曜日に果たしました。いつも土曜日に前晩のミサとして主日のミサにあずかっている高井旅の皆さんには、日曜日に受けるミサは新鮮だったかもしれません。

すでに信徒発見劇をご覧になったと思いますが、わたしが劇のどの辺で登場したか、お分かりになったでしょうか? 「旦那様」「いえ、旦那様」「お許してください、旦那様」「へい、旦那様」圧倒的な演技力に、皆さん大喜びだったことだと思います。

ところで次回予定されている4月9日(土)10日(日)の長崎ブリックホール公演にもぜひという声があるのですが、辞退させていただきます。桐出身の与作という役柄ですから、長崎公演では桐の神父様が出演なさるのが理想的だと思うのですが、いかがでしょうか。

福音朗読に戻りましょう。イエスの姿が変わる場面が朗読されました。そこにはイエスと、ほかにモーセとエリヤとがイエスのエルサレムで逃げようとしていた最期について語り合っていたとあります。日本語で「最期」と訳されているギリシャ語は「エクソドス」という単語で、英語でもそのまま「エクソダス」と訳しています。

この単語ですぐお気づきかと思いますが、「出エジプト記」という旧約の書物が「エクソドス」と呼ばれます。そうすると今回は「最期」と訳されていますが、出エジプト記からも容易に連想できますが、もともとは「(エジプトの隷属状態からの)脱出」「出発」という意味です。

そこで今回は、「イエスの最期について話していた」という部分を、「イエスのエクソドスについて話していた」と理解して学びを得たいと思っています。つまり、「イエスがエルサレムで逃げようとしている『出発』について話していた」言葉のもともとの意味で学びを得たいのです。

すると、イエスがエルサレムで逃げようとしていることの意味ももっとダイナミックな印象に変わります。イエスが逃げようとしていた最期についてという理解であれば、そこですべてが止まってしまうような印象になります。

一方の「イエスが逃げようとしておられる出発について話していた」と読むと、イエスがエルサレムで成し遂げようとしているのはより良い方向への上り坂の出発なのです。イエスがエルサレムで成し遂げることとはもちろん十字架の上での出来事ですが、それは死んで終わりというようなものではなく、十字架の上の死によって、復活という栄光へ向かう出発が始まるのです。

このダイナミックな動きを、わたしは今回の信徒発見劇を通して学

ぶことができました。杉本ゆりは大浦に天主堂が建ち、そこに司祭がいるに違いないという胸の高鳴りを覚え、やむにやまれず訪ねて行ってプ
チジャン神父と感動的な出会いをしました。

浦上のキリシタンたちは、本当は誰もが大浦の天主堂に待ち焦がれた司祭がいるのではないかと思っていたのですが、命を危険にさらしてまで訪ねていく勇気がどうしても出てこなかったのです。

そんな中、杉本ゆりと仲間たちは、今週の福音朗読にある「エクソ
ドス」を実行したのです。それは、役人に見つかって命を落とすとい
う「最期」を迎えるかもしれない危険を冒してでも、信仰をひた隠しに
して生きる現状から、よりよい未来に向かっての「出発」だったのです。

杉本ゆりが、「エクソドス」「出発」を実行に移さなかったら、浦
上キリシタンたちとプチジャン神父との出会いはさらに何年もあとに延
びていたかもしれません。ここには大きな教訓があると思うのです。つ
まり、人はある場面では「エクソドス」「出発」を決意することでより
よい状態に移ることができるということです。

今の状態を維持することも、一つの生き方でしょう。信仰をひた隠
しにしてきた人の中には、浦上キリシタンが150年前に司祭に出会った
後も、自分たちの様式に従って信仰を守り続け、隠れキリシタンとして
生きています。ある場面で「エクソドス」「出発」を経験する人たちと
経験できなかった人たちとは、その後に大きな違いが生じたわけです。

イエスは、御自分がエルサレムで遂げようとしておられる「エクソ
ドス」「出発」について弟子たちに予告し、御父はその予告の後に「こ
れはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」(9・35)と呼びかけます。
弟子たちにもイエスに聞き従い、イエスと同じ「エクソドス」「出発」
を体験するように招いているのです。

同じことはわたしたちにも向けられています。築き上げた生活や安
定しいた待遇、それらが心地よくなった時、わたしたちには誘惑が忍び
寄ってきているのです。ここまで成し遂げてきた。今のわたしならこの
石にパンになるように命じてもそうなるかもしれない。望むだけの権力
と繁栄が手に入るかもしれない。高いところから飛び降りても怪我など
しないかもしれない。ここまでわたしが築き上げてきたものは、誘惑に
なりうるのです。

そこでイエスはご自分の「エクソドス」「出発」を示して、御自分
に聞き従うように招きます。今まで築き上げたもののうちから、何かを
困っている人のために手放したり、自分よりも経験の浅い人に上に立つ
仕事を任せ、自分は支える側に回ったり、何かの形で「エクソドス」「出
発」を求められているのです。

これまで築き上げたものに安住せず、今一度両手を空にしてイエス
の「エクソドス」「出発」に聞き従う。ここにわたしたちの信仰の成長
があるのだと思います。わたしも含め、すべてのキリスト者がイエスの
求めに聞き従って、救いの道を歩き続けるのです。